

平成 25 年度第 2 回富良野市中小企業振興促進審議会議事録

日 時) 平成 25 年 12 月 16 日 (月) 午後 3 時 30 分～午後 4 時 45 分

場 所) 富良野市役所第三会議室

出席委員) 佐々木淳、平沢幸雄、市村英規、杉谷久己、奈良定雄、三上那男、
原あけみ、長屋義文、高崎節子

事務局) 山内室長、川上課長、本田係長、松野主査、福士商工労働係

1. 開会 (川上課長)

- ・ 本日は、館委員が欠席、市村委員が遅参と伺っており、現在のところ審議委員 10 人中 8 人が出席をいただいている。富良野市中小企業振興条例施行規則第 16 条の規定に基づき、会議が成立していることを報告する。

2. 辞令交付

3. 市長挨拶

- ・ 向こう二年間にわたる任期の辞令を交付させていただいた。
- ・ 商工会議所、商工会、あわせると 700 弱の会員がいる。それぞれ生計をなし、商工業を通じて富良野のまちづくりに寄与いただいている。
- ・ 人口減をいかに止めるか、交流人口をどう増やすかが重要な課題。
- ・ 定住自立圏の指定をいただき、富良野市が中心市として、12 月議会において関係市町村との協定について議決をいただいた。
- ・ 中心市には年間 4 千万円、5 年で 2 億円もの交付金を受けることができる。地域医療の確保等に活用していきたい。
- ・ 審議会に審議いただき、中小企業振興総合補助金制度を確立。中心市街地において 10 件以上の出店を支援してきた。さらには、今年度から融資枠を拡大。今後も中小企業の振興に向け、審議委員のみなさんの知恵を活かせるような状況づくりを進めて参りたい。

4. 議事 議案第 1 号 会長の選出について

(川上課長)

- ・ 本日は、新任 1 回目の審議会のため、会長選出を行う。
- ・ 会長の選出にあたっては、委員の互選により決定することとなっているが、会長が選出されるまで慣例により市長が進行を行う。

(能登市長)

- ・ 会長職は委員の互選により決定ということだが、推薦等があれば発言願う。
(杉谷委員から、佐々木委員を推す発言があり)

- ・ 杉谷委員から佐々木委員を推薦いただきましたが、いかがか？
（異議なしとの声があり）
- ・ 異議なしと認め、審議会の会長を佐々木淳委員とする。

5. 会長挨拶

- ・ 前任期の審議会に増して活発な議論を行っていききたい。
- ・ 富良野商工会議所の会頭が「まちが寂れると愛着、誇りがなくなる。そうなればまちが衰退し、何かを起こそうという実行力もなくなる。」とよく発言している。
- ・ 商工業はまちづくりに欠かすことができないファクター。地域の現状に即した的確な対応を審議会として示していききたい。
- ・ 現行制度についても、より良い方向で見直しを行うことも含め、振興策を実施し、持続可能なまちづくりに貢献したい。

6. 報告事項

（報告事項、事務局より説明）

⇒報告事項に関する質疑なし

（佐々木会長）

- ・ 今審議会は、新任期となって1回目の審議会ですので、委員各位からそれぞれの所属団体に関する事など、思うところを発言いただきたい。

（平沢委員）

- ・ 個人的には2期目の審議委員。前任期では商工会議所の金融財政委員長の立場で選出を受けていたが、11月からは総務委員長の立場。市への制度政策要望なども担当するというので、以前とまた違った立場で参画したい。
- ・ 政権交代以降、株価も上昇し、消費マインドに変化。富良野においても夏の観光客が増加し、「暇だ」という声が聞こえていた飲食店も徐々に繁盛するきざしが見えてきた。
- ・ 建設業としても、富良野地域は順調に仕事を確保できていると思う。いつまでもこの発注量が維持されるとも思わないが、国からの補助金頼みではなく、地域の内需が拡大し地域で経済がまわっていくほど力強い景気動向となればと期待している。

（市村委員）

- ・ 工業分野は悪いとは言いながらも、他地域と比べるとまだまだ良い方。富良野は、観光農業の下支えがしっかりしている。
- ・ この間、金利も低く設備投資するには願ってもない環境だったが、先行きが見通せず、新たに投資する気にはなれない状況が続いていた。
- ・ 補正予算事業は平成24年度の単価で発注されているが、資材単価や労務単価が上昇しており、経費があわない状況もあった。ようやく単価が見直しされ、下請

単価へ単価上昇が反映され始めた。

- ・ 平成 25 年度は発注単価も上がっているの、徐々に地方経済へも好影響が出てくるのではと期待している。設備投資を考えることができるような状況になってきた。

(杉谷委員)

- ・ 山部は商店街として活性化するのは難しい。
- ・ 現在受入している農業体験事業などを活用した活性化策を検討。現在も、観光バスの昼食受入等の効果はあるが、農家、太陽の里、生涯学習センターを活用してよりお金を地域に落としてもらうようなしくみづくりを進めたい。
- ・ 閉店している山部の店を借りて、クリエイターズマーケットに出展しているクリエイターに半月、一か月でも商売してもらえそうな状況がつかれないか検討したい。
- ・ 中小企業振興資金の貸付が伸びているが、金融協会（三上委員）には、どんどん貸していただけるよう、お願いしたい。
- ・ 市については、これら融資に必要となる予算を確保していただきたい。

(奈良委員)

- ・ 中小企業振興資金などで貸付年数や限度額が伸びたこと、金利がより有利になったことは評価したい。
- ・ 中小企業振興総合補助金が、マルシェ 2 に対応できるのかどうか。予算を確保してほしい。
- ・ 周辺の店舗も改修の機運が高まると思う。既存の店舗へもしっかり支援してほしい。20 万円の定額補助よりも、手厚い融資制度があった方がいいと思う。

(原委員)

- ・ 事前にいただいた議案を読み込んでみたが、まだまだわからないことが多くある。勉強していきたい。

(三上委員)

- ・ (融資の見直しにあたり) 今年の上半期で中小企業振興資金が 2 億円近くの融資実績となった。新規開業者と比較して、既存の、頑張って商売されている方々の融資条件をわざわざ据え置く必要はないと意見させていただいた。
- ・ 利子補給の条件等が良くなったことを受けて、残高が減ってきた融資先については、繰上償還して借り換えするなどの動きがあったことも融資の伸びにつながった。
- ・ 先日の金融担当者会議で、残高管理について話題にのぼったそうだが、(中小企業振興資金の) 融資限度額 1500 万円と設定しているものに対して、融資の残高管理、確認を行わないのであれば、限度額設定が有名無実化する。商工会議所、商工会含めた管理体制づくりが必要。
- ・ 信用協会保証が農業を対象としていないことも承知しているが、どこのまちの商

工業制度融資も農業を対象としていないからできないではなく、富良野市は農業が基幹産業であるので、市の制度融資として、農業分野もフォローすることを検討してはどうか。農業も様変わりし、農協をとおさない商品取引や資金調達を行っている農家も増えている。6次産業化などもしっかりだが、一企業として農業が成立していくとき、農家だから対象外ということにしていいのだろうか。民間事業者が保証をつける融資事例もあるので、検討してほしい。

(長屋委員)

- ・ 同友会では富良野地域で 50 会員。若手経営者で組織する「若葉会」では、来年全年道 200~300 人規模の会議を富良野で開催予定。
- ・ TPP、消費税増税がそれぞれの経営に影響する面を懸念。
- ・ 例会等では金融についての悩みを聞いたことはないが、市の制度については引き続き PR していきたい。

(高崎委員)

- ・ 女性の委員が増えたことが何よりもうれしい。
- ・ 介護事業所が増えてきている印象。
- ・ 女性が集まって、趣味やおしゃべりができるようなスペースが中心市街地にあればと考えている。市でどこかの店舗を借りて開放するようなことはできないか。

(杉谷委員)

- ・ 先ほど、市の制度資金の残高管理の話題があったが、残高オーバーした事例はあるのか？

(事務局)

- ・ 今のところ残高超過はない。しかし、融資実行額をリアルタイムで把握しているわけではないので、超過が起り得る可能性はある。そのため、改善策を検討していくもの。

(三上委員)

- ・ 残高を把握していくためには、返済明細を提出することが必要になる。当行は、写しを提出する方向であり、金融協会内で対応を調整したい。

(杉谷委員)

- ・ 現状の手続の流れでは、必ず商工会議所、商工会のあつせんを受けることになっているので、商工会議所、商工会でチェックするのがいいのではないか。

7. その他

特になし

8. 閉会（午後 4 時 45 分終了）